

中学年の学級担任による授業づくりの実践

碧南市立日進小学校 教諭 成澤 美紀

1 学校・児童の実態

本校は、碧南市の東端に位置し、校区内に田畑やビニールハウスが点在する田園風景の残る緑豊かな地域である。全校児童数は349名、各学年2学級という小規模校であり、校訓「誠実」を教育活動の理念に、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成を目指している。また、本年度の重点努力目標の一つに学習指導の充実を挙げ、児童が分かる喜びやできる喜びを味わう授業づくりの視点として、全教科等において言語活動を重視することと、外国語を使ったコミュニケーション能力を育成することに取り組んでいる。

移行期間における学級担任とALTによる年間15単位時間の授業を通して、「外国語でコミュニケーションを行うことに興味や関心をもつことができる児童の育成」を目指した実践を行うこととした。

2 ねらい

新学習指導要領では、小学校外国語活動の目標に、「言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成する」とある。外国語でコミュニケーションを図ることに興味や関心をもって、学習に取り組むことができる児童を育むために、中学年学級担任による実践を通して、効果的な授業づくりの方策を探る。

3 実践

(1) 手だて

ア 児童の実態に合った単元末活動の設定

児童が「話したい」「聞きたい」と思える言語活動を単元末に設定することで、外国語でのコミュニケーションの楽しさを味わうことができるようにする。

イ 単元末活動に向けた表現の練習

表現に慣れ親しむゲーム的な活動から自分のことを伝え合う活動へと、単元の中で段階的に組みこませることで、児童が自分のことを英語で伝えることができたという満足感を単元末活動で味わうことができるようにする。

ウ コミュニケーションポイントの意識付け

全校で取り組んでいる「お話名人への道（聞き上手・話し上手になろう）」を外国語活動でも取り入れ、「clear voice・listen carefully・smile・eye contact」の4観点を児童に示すことで、相手を意識した活動に取り組めるようにする。

エ 見取り（グッバイチャレンジ）の実施

授業の終末に児童が授業の振り返りを記述する場面で、学級担任が児童一人一人と簡単なやり取りを行うことで、本時における児童の理解や定着を見取る。

(2) 単元構想及び指導計画

令和元年度5月に第4学年児童24名に対し、外国語活動の授業に対する意識調査を行った。「英語の

授業は好きですか」という質問に対して、24人全員が「とても好き」「好き」と回答した。その理由は、「ALTがおもしろいから」「ゲームや歌が好きだから」「楽しく覚えられるから」などであった。一方で、「英語の授業では、友達や先生と英語を使って話そうとしていますか」という質問に対して、学級の3分の1に当たる8人の児童が「あまり話せていない」「ほとんど話せていない」と回答した。これらの結果から、児童はALTとの活動を楽しみ、英語の歌やゲームでの英語には慣れ親しんでいるが、既習の表現を使って友達や教師と英語で話すことには消極的であることが分かった。

そこで、友達と英語でやり取りをする楽しさを児童が味わえるように、学級担任のみの授業を設定した単元（Let's Try! 2, Unit 5 「Do you have a pen?」 4時間完了）を計画した（別紙1）。4年生の5月に学習する国語科「案内係になろう」の単元では、児童は、水族館の案内係とお客さんの役を楽しみながら、質問したり答えたりして意欲的に学習を進めることができた。そうした児童の姿から、

【資料1 第4学年 Unit 5の主な活動】

外国語活動でも、お店屋さんごっこの活動を設定することで、英語を使って友達と伝え合う活動に進んで取り組めるのではないかと考えた。そこで、おすすめの文房具セットをつくるために文房具屋に行くという場面設定の言語活動を単元末に設定した。

また、単元末の活動につながる練習を十分に行えるよう、「聞く活動」を中心に行い、「話す活動」を徐々に加え、表現に慣れ親しむゲーム的な活動から自分のことを伝え合う活動へと段階的に活動を設定した（資料1）。

○：ゲーム的な活動 ◎：自分のことを伝え合う活動

時	めあて	聞く	話す	主な活動
1	文房具の言い方を知ろう	○		ポインティング・ゲーム、キーワード・ゲーム、Let's Watch & Think など
2	持っている、持っていないを伝えよう	○	○	キーワード・ゲーム、Let's Chant、Let's Listen など
3	持ち物を尋ねたり答えたりしよう	◎	◎	Let's Chant、Let's Play②など
4	ペアでおすすめの文房具セットを作ろう	◎	◎	Let's Chant、お店屋さんごっこなど

(3) 指導の実際と考察

ア 児童の実態に合った単元末活動の設定とそれに向けた表現の練習

(ア) 第1時 新しい表現に触れる活動（めあて：文房具の言い方を知ろう）

単元の導入として、児童とやり取りをしながら、学級担任のかばんの中身を英語で紹介した。児童は学級担任の持ち物に興味を示し、「Do you have pencils?」などの学級担任の質問に「Yes!」、「No!」と答えたり、学級担任が筆箱の中身を見せながら「How many pencils?」と聞くと「Three!」と答えたりした。児童の表情やうなずく様子から、児童は英語を理解していると学級担任は感じた。

その後、本単元で学習する「I have ~」の表現や身の回りの物の英語に慣れるために「聞くこと」を中心とした活動として、ポインティング・ゲームを行った。ポインティング・ゲームは、児童が3年生のときに経験している活動で、学級担任による英語の説明に児童は戸惑うことなく、活動に取り組むことができた。そして、Unit 5 【Let's Watch and Think①】（本文中の【 】は小学校外国語教材で設定されている活動名を表す。以下同様）の映像の視聴を通して、単元末の活動で使用する新しい表現に慣れるようにした。映像を視聴しながら、何が幾つあるか尋ねると、「分かった」と反応する児童が多く、「ノート」「筆箱」「6冊」など、分かったことを次々に言っていた。最後に、3年生で取り組んだヒント・ゲームを取り入れ、ALTが英語で話すヒントを聞いて、その英語が表す文房具の絵カードを取る活動を行った。文房具の絵カードを、一人につき1セット用意することで、全員が、自分のペースで絵カードを取る活動を行うことができた。ゲームへの反応もよく、楽しそうに取り組んでいる様子が見られた。

児童の振り返りカードの記述を見ると、文房具の表現に興味をもったり、知ることができた喜びを

感じたりしている児童が17人、「難しかったが、楽しかった」と記述した児童が4人で、多くの児童がゲームや活動を通して文房具の英語表現を知ることができたことに喜びを感じていることが分かった（資料2）。計画の段階では、12種類の文房具の名前を学習することは児童にとって多すぎないか心配であったが、活動の様子や記述の内容から、多くの児童は負担に感じてはいないようだった。

その中で、児童Aは、学級の中で一人だけ「難しい」と記述していた。（資料3）。

【資料2 児童の振り返りの記述（第1時）】

- ・知らない文房具の英語が分かって楽しかった。
- ・クイズや問題で文房具を英語でなんて言うか分かったので楽しかった。
- ・だいたい全部（の文房具の英語を）知ることができたから次の授業で言えるようにしたい。
- ・難しかったけれど、楽しかったし、いろいろなことが学べてよかった。

【資料3 児童Aの振り返りの記述（第1時）】

- ・英語が苦手で、特に文房具は難しいからがんばりたい。

(イ) 第2時 「話すこと」を取り入れる活動(めあて:「持っている」「持っていない」を伝えよう)

第2時の導入では、前時で「聞くこと」の活動として行ったキーワード・ゲームを、「話すこと」も取り入れた活動として行った。さらに、前時では学級担任は文房具の単語でゲームを行ったが、第2時では、“I have a pencil.”と文を児童に聞かせ、児童はその文を聞いて、文房具の単語のみを言う活動とした。キーワード・ゲームの後は【Let's Chant】に取り組んだが、映像を見ながらリズムに合わせて“I have ~.”と言うことは、児童にとって楽しい活動のようで、「(チャンツの)スピードを上げたい」という声が多くの子から聞かれ、より難しいことに挑戦したいという意欲が感じられた。

このようにゲーム的な活動を通して、「I have ~」の表現に慣れ親しんだ後、自分のことを話す活動として、児童が自分の筆箱に入りたい物を友達に尋ねたり答えたりする活動を行った。児童は、“Do you ~?”の表現にまだ慣れていなかったため、安心して友達と話すことができるように、グループ活動ではなく、全体で行うことにした。ゲーム的な要素がある活動のため、児童は楽しそうに“Yes, I do.”“No, I don't.”と言いながら自分が選んだ文房具を確認することができた。最後に【Let's Listen】に取り組み、本時の学習内容を児童がどこまで理解できているか確認した。イラストを見ながら登場人物の筆箱の中身についての英語を聞くと、多くの児童は、「分かった」「できた」と口々に言った。

児童の振り返りカードの記述から、めあてが達成できたと感じた児童が15人だった。一方で、難しかったが「聞くことはできた」「覚えたい」と前向きな思いをもっている児童が2人、「ちょっとできなかった」「難しかった」と記述した児童が2人いた（資料4）。「聞く活動」に「話す活動」が加わったことで、難しいと感じた児童もいることが分かった。

【資料4 児童の振り返りの記述（第2時）】

- ・前よりも文房具がなんて言うか分かったし、「持っている」「持っていない」が分かってよかった。
- ・「話す」はちょっとできなかったけど、「聞く」はできました。
- ・定規と鉛筆けずりの発音が難しかったから、覚えたいと思いました。

児童Aは、「少し難しかった」と記述した（資料5）。

【資料5 児童Aの振り返りの記述(第2時)】

・「持っている」「持っていない」が少し難しかった。

(ウ) 第3時 自ら発話する活動：持ち物を尋ねたり答えたりしよう

導入の【Let's Chant】では、少しずつ“Do you have ~?”の表現や文房具の英語に慣れてきて、リズムに合わせて言える児童が増えてきた。次に、世界の子どものかばんの中身を紹介する内容の【Let's Watch and Think②】を視聴した。デジタル教科書には、スウェーデン、韓国、アメリカの子どもによる紹介があるが、話す活動に多く時間を設定したいと考えたため、ALTの母国のアメリカの子どもの映像のみとした。1回目の視聴では、児童は内容を理解することが難しい様子だったが、2回目は、「サンドイッチ」「リンゴ」など、映像を視聴して分かったことを口々に言った。児童は、自分の持ち物と比べて気付いたことをワークシートに記述した後、それを発表した。

そして、単元末活動に向けての練習として、ペアで伝え合う活動を取り入れた。コミュニケーションポイントは、「Listen carefully・Clear voice・Eye contact・Smile」の4観点を掲示し、児童が伝える相手を意識しながら活動に取り組めるようにした。学級担任とALTによるデモンストレーションの後、児童は、自分が考えるおすすめの文房具セットの中身とそれらを選んだ理由をワークシートに記述した(例:「ノート:お絵描きをするため」など)。

また、今まで練習してきた文房具の絵カードにはない「シャープペンシル」を文房具セットに入れたいという児童がいた。第3時はティーム・ティーチングであったので、学級担任がALTに質問し、「mechanical pencil」という英語をその場で児童に伝えることができた。児童は、“Do you have ~?” “Yes, I do. / No, I don't. I have ~.”というやり取りを友達としながら、おすすめの文房具セットについて伝え合うことができた。

児童の振り返りカードには、「持っているかを尋ねたり、答えたりできたからよかったし、楽しかった」という記述が大半を占め、「持っているかを尋ねたり、答えたりする」という第3時のめあてを意識しながら、児童は活動に取り組むことができたと考える。中には、「もう少し答えを早く言いたい」「楽しかったし、めあてが(達成)できた。だけど、Yes, I don't.になってしまう」など自分の課題に気付く記述も見られた。今まで「難しかった」と記述していた児童Aは「分かってきた」「できた」と記述し、新しい表現に慣れてきたことが分かる(資料6)。

【資料6 児童Aの振り返りの記述(第3時)】

・言い方が分かってきた。英語で返事ができた。

(エ) 第4時 単元末の言語活動(めあて:ペアでおすすめの文房具セットをつくろう)

導入の【Let's Chant】では、映像や音楽に合わせて、“Do you have (文房具)?”, “Yes, I do. / No, I don't.”と今までより大きな声で言えるようになり、児童に馴染みが少なかった“eraser”や“stapler”という英語にも多くの児童が慣れてきた。その後、絵カードを使って、文房具の言い方を復習し、本時のめあてと「Listen carefully・Clear voice・Eye contact・Smile」の4観点のコミュニケーションポイントを黒板に掲示しながら確認した。

【資料7 児童のやり取りの例】

客 : Hello.

店員 : Hello.

客 : Do you have a pen?

店員 : Yes, I do. Here you are.

(または、No, I don't. Sorry.)

客 : Thank you. See you.

本時は、Unit 5 のまとめとなる言語活動として、ペアでおすすめの文房具セットをつくる。児童は、ペアでおすすめの文房具セットを考え、欲しいものを決めた後、自分たちが持っている絵カードにはない文房具を手に入れるために店に行くという活動である。児童が店員役と客役になり、自分たちが考えたおすすめ文房具セットをつくるために、本単元で学習した表現を使ってやり取りを行う。店員と客という場面を児童がイメージしながらやり取りができるように、学級担任が「お店で店員さんは何というかな?」「商品を渡すときは?」「お客さんの欲しいものがお店になかったらどうしよう?」などと児童に投げかけながら、やり取りの例を児童と一緒に考え、練習した(資料7)。

店員役と客役に分かれて活動が始まると、恥ずかしそうにして戸惑っている児童や黒板に掲示したやり取りの例を見ながら話す児童がいたため、活動を止めて、コミュニケーションポイントの「Eye contact」を確認した。活動を再開すると、児童は、自分の欲しい文房具を手に入れるために何度も店に行くことで、黒板を見なくても友達と会話できるようになってきた。最初は友達に教えてもらいながら会話をしていた店員役の児童も、やり取りの回数を重ねることで、しだいに客役の児童が来るのを心待ちにしていたり、コミュニケーションポイントを意識して会話を楽しんだりするようになった。

児童の振り返りカードの記述には、店でのやり取りの楽しさやめあてを達成できた喜びなどの記述が多数あった(資料8)。また、コミュニケーションポイントについての記述も多くあり、「できた」という児童だけでなく、「アイコンタクトがあまりできなかったから、次は気を付けたい」「最初は黒板を見て(話して)しまったので、見ないようにしたい」と自分のやり取りの様子を振り返りながら、次への課題を見つけることができた児童もいた。

【資料8 児童の振り返りの記述①(第4時)】

- ・ペアでおすすめの文房具セットがつくれたのでよかった。
- ・ペアの子といっしょに文房具を決めるのが楽しかった。
- ・店員さんみたいになれて楽しかった。
- ・たくさんしゃべれてよかった。 ・いろいろな人としゃべれてよかった。
- ・緊張せずにお店側や客側をしっかりとできた。
- ・黒板を見ずにできた。 ・お客さんのとき笑顔でしゃべれてうれしかった。

また、店でのやり取りの活動を大変だと感じたり、うまくできなかったと振り返ったりした児童でも、「楽しかった」と記述している(資料9)。「おすすめ文房具セットをつくる」という課題に向けて、英語でのやり取りを繰り返しながら学習を進めることで、児童は、「できなかったことが、少しずつできるようになってきたこと」や「できないこともあったけど、できたこともあったこと」を自分で実感することができたと考えた。英語を苦手だと話していた児童Aの振り返りの記述から、活動を通して徐々に苦手意識がなくなっていることが分かった(資料10)。

【資料9 児童の振り返りの記述②(第4時)】

- ・お客さんがいっぱい来て、英語で言うこともすごく難しくて大変だったけど、楽しかった。
- ・「どうぞ」の英語を忘れてしまったけど、楽しかった。
- ・言うのを忘れることもあったけど、楽しかった。
- ・お店の人になって、少し分からなくなったときもあったけど、なんとかできました。

【資料10 児童Aの振り返りの記述（第4時）】

・言えるようになった。ちゃんと相手を見てできた。

イ コミュニケーションポイントの意識付け

児童が相手を意識して英語でやり取りができるように、コミュニケーションポイントを、毎時間、授業の最初に黒板に掲示した。単元の最初に、「Listen carefully・Clear voice・Eye contact・Smile」の4項目全てを掲示するのではなく、毎時間、少しずつ増やしながら掲示することで、児童が「コミュニケーションポイントを意識して活動に取り組むことができた」と実感できるようにした（資料11）。

【資料11 コミュニケーションポイントの掲示】

時	Listen carefully	Clear voice	Eye contact	Smile
1	○			
2	○	○		
3	○	○	○	○
4	○	○	○	○

第3時の児童の振り返りでは、コミュニケーションポイントに触れて記述している児童が増え、単元末の活動の振り返りでも、「お客さんのとき笑顔で話せて、うれしかった」と記述した児童のように、多くの児童が意識して活動に取り組んでいたことが分かった（資料12）。

【資料12 児童の振り返りの記述（第3・4時）】

第3時：

- ・笑顔で話せた。目も人の方に向けた。
- ・コミュニケーションポイントができたところもあれば、ちょっとしかできないところもあったけど楽しかった。

第4時：

- ・ちゃんと相手を見てできた。
- ・黒板を見ずにできた。
- ・アイコンタクトがそこまでできなかつたから、次は気を付けたい。
- ・最初、黒板を見てしまったので、見ないようにしたい。

ウ 見取り（グッバイチャレンジ）の実施

グッバイチャレンジは児童の理解や定着を見取る方法の一つとして、児童が授業の終末に振り返りカードを記述している際に、学級担任が児童一人一人に“Do you have～?”と尋ねた（写真1）。児童が学級担任の質問を理解し、学習した表現を使って自分のことを伝えているかを確認するために、本単元では第3時と第4時でグッバイチャレンジを行った。

第3時のグッバイチャレンジでは、24人中22人の児童が、学習した表現を使ってスムーズに応答することができた。児童Bは、学級担任が、“Do you have a pencil case?”と尋ねると、自分の筆箱を持っているのに、“No, I don't”と答えた。しかし、その後、自分で間違いに気付き、“Yes, I do.”と言い直した。また、児童Cは、“Yes, I don't.”と言った後に、“Yes, I do.”と言い直した。



【写真1 グッバイチャレンジの様子】

第4時のグッバイチャレンジでは、児童Bは正しく答えることができた。児童Cは、“Yes, I don't.”

と答えたが、すぐに“Yes, I do.”と言い直した。また、児童Dは“ruler（ものさし）”を持っているのに、“No, I don't.”と答えた。“pencil（鉛筆）”や“notebook（ノート）”と比べると、“ruler”という英語は、児童にとって身近な表現ではないためではないかと考える。

Unit 5で初めて実施したグッバイチャレンジについて、実践後、児童の感想には、「楽しかった」「うれしかった」「またやりたい」という記述が多数あった（資料13）。児童Eは「何て言ったらいいのかわからなくなった」と記述していたが（資料14）、実際のグッバイチャレンジでは、学級担任の質問に正しく答えることができていた。

【資料13 グッバイチャレンジの児童の感想】

- ・最初はどきどきしたけど答えを言ったら、どきどきしなかったから、もう1回やりたいと思った。
- ・復習できてよかったし、先生とできてうれしかった。
- ・ちょっと緊張したけれど、分かるようになったからもっとやりたい。

【資料14 児童Eのグッバイチャレンジの感想】

- ・言うのが難しかった。何て言ったらいいのかわからなくなった。

4 成果と課題

(1) 実践の成果

実践後の7月に実施した児童の意識調査の結果は以下のとおりである。「英語の授業では、友達や先生と英語を使って話そうとしていますか」という質問に、「いつも話そうとしている」「できるだけ話そうとしている」と回答した児童が、実践前の結果と比べて6人増え、22人になった。このことから、児童の実態に合った単元末の言語活動を設定し、目標達成に向けて段階的に学習活動を組み立てていくことは、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成に効果的であることが分かった。

質問1 英語の授業は好きですか。	※（ ）は、5月の人数との比較
①とても好き	16人（+1人）
②好き	7人（-2人）
③あまり好きでない	1人（+1人）
④好きでない	0人（±0人）
質問2 英語の授業では、友達や先生と英語を使って話そうとしていますか。	
①いつも話そうとしている	9人（+4人）
②できるだけ話そうとしている	13人（+2人）
③あまり話せていない	2人（-5人）
④ほとんど話せていない	0人（-1人）

さらに、学級担任が外国語活動を行う利点として、次のことが明らかとなった。

ア 児童の実態に合った単元末活動の設定

小学校では、児童が日々、生活や学習の中で新しい経験をし、その時の驚きや発見を身近な存在である学級担任に伝えることがよくある。学級担任はそうした児童の姿から、児童にとって身近で興味・関心のもてる話題に関する言語活動を設定することができる。また、学級担任は、児童の学習内容や活動内容を把握しているので、他教科等の学習と関連付けた活動を計画する際、専科指導教員と比べ

て情報収集や打ち合わせに多くの時間を費やす必要がない。

イ 単元末活動に向けた表現の練習

児童が英語で自分のことを伝え合うには、少しずつ繰り返し練習する場を設定する必要がある。学級担任が、児童の学習の様子から理解の状況を把握し、臨機応変に児童に合った補足の説明を行うことで、児童は外国語活動の楽しさを味わうことができる。また、必要に応じて、活動内容を追加したり修正したりすることも行いやすい。

ウ コミュニケーションポイントの意識付け

学級担任が学習規律として日常的に指導している話し方や聞き方を、外国語活動の学習でも意識させることで、児童が安心して学習に取り組むことができる。

エ 見取り（グッバイチャレンジ）の実施

外国語活動ではペアやグループで活動する場面が多く、外国語活動を指導する経験が少ない学級担任にとっては、他教科と比べて、本時のねらいが達成できているか判断することに不安を感じる。そこで、グッバイチャレンジのように個別の見取りの場を設定することで、児童一人一人の理解や定着を学級担任が確認することができ、理解や定着が不十分な場合は、授業改善につなげることができる。さらに、身近な学級担任との個別のやり取りは児童にとって楽しみな活動であり、授業以外の場面で個別の支援を行うことができることも学級担任の利点と考える。

(2) 今後の課題

実践後の意識調査の「英語の授業を好きですか」という質問に、児童Eだけが「あまり好きではない」と回答した。活動の様子やグッバイチャレンジでの応答からは、学習内容を十分に理解できていたと考える。しかし、今まで経験してきた歌やゲームの活動と比べて、友達と英語でやり取りをする活動は思考力や判断力がより必要となり、児童Eにとっては、「難しい」と感じる活動であったのだろう。こうした児童に対する支援をどのようにしていけばよいか今後の課題である。

碧南市では、令和2年度に中学年の外国語活動35時間にALTが配置される見込みとなった。外国語活動の経験が少ない学級担任にとっては、ALTの存在は大変心強い。しかし、新学習指導要領の目指す資質・能力の育成を目指した言語活動を行っていくには、児童の実態に応じた指導計画の作成や修正、個々の児童に対する支援が必要である。そのため、学級担任が積極的に授業づくりに関わることが重要であると考えられる。学級担任ができることとして、次の3点がある。

- ・ 児童がやってみたいと思える課題の設定
- ・ 他教科等との関連を図る学習計画づくり
- ・ 英語の表現に触れる環境整備（掲示・朝の歌など）

また、カードやワークシート、指導案などの教材を校内で共有する体制づくり、外国語活動の情報や指導の悩みを共有できる雰囲気づくりも必要である。

児童の実態を知る学級担任の強み、児童とやり取りしながら授業を進める授業力に自信をもって、今後も外国語活動に取り組んでいきたい。

参考文献等

- 文部科学省『小学校学習指導要領』平成29年3月公示
- 愛知県教育委員会（2019）『教員研修の手引 平成31年度 幼稚園・小学校・中学校』
- 『平成29年版小学校新学習指導要領ポイント総整理 外国語』大城賢 編著 東洋出版社 2017

第4学年 外国語活動学習計画

1 単元名 Let's Try2! Unit5 Do you have a pen? おすすめの文房具セットをつくろう

2 単元目標

- ・文房具などの学校で使う物や、持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。(知識及び技能)
- ・文房具など学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)
- ・相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。(学びに向かう力、人間性等)

3 学習計画(4時間完了)

○：ゲーム的な活動 ◎：自分のことを伝え合う活動

時	学 習 活 動	聞く	話す	教師の支援
1 T T	1 あいさつ、めあての確認 文房具の言い方を知ろう 2 学級担任のかばんの中に入っている物を予想する。 3 キーワード・ゲーム 4 【Let's Watch and Think①】 5 【Let's Play①：ヒントゲーム】 6 振り返りカード記入、あいさつ	○ ○ ○		・相手を意識して活動できるようにコミュニケーションポイントを確認する。 ・学級担任の持ち物を話題にすることで興味をもたせる。
2	1 あいさつ、めあての確認 持っている、持っていないを伝えよう 2 キーワードゲーム ・ゲームの前に誌面の4種類の筆箱の中身を確認する。 3 【Let's Chant：Do you have a pen?】 4 カード・デスティニー・ゲーム ・ゲームで使用する文房具の絵カードを掲示する。 5 【Let's Listen】 ・筆箱の中身の紹介を聞き、誰の筆箱かを考える。 6 振り返りカード記入、あいさつ	○ ○ ○ ○	○ ○ ○	・相手を意識して活動できるようにコミュニケーションポイントを確認する。 ・教師は“I have～”と文を言うが児童は文房具の単語を言う。 ・数回聞かせ、言える部分だけ少しずつ英語で言うように伝える。
3 T T	1 あいさつ 2 【Let's Chant：Do you have a pen?】 3 【Let's Watch and Think②】 ・映像を見た後、自分たちと同じところ違うところをワークシートに書く。 4 めあての確認 持ち物を尋ねたり答えたりしよう 5 【Let's Play②】 ・おすすめの文房具セットを作って、友達の質問に答える。 6 振り返りカードの記入、あいさつ	○ ○ ◎	○ ◎	・相手を意識して活動できるようにコミュニケーションポイントを確認する。 ・ALTの出身地であるアメリカの位置を地球儀で確認する。 ・グッバイチャレンジを行い、個の学習状況を把握する。
4	1 あいさつ 2 【Let's Chant：Do you have a pen?】 3 文房具の言い方の復習 4 めあての確認 ペアでおすすめの文房具セットをつくろう “Do you have ～?” “Yes, I do. Here you are. / No, I don't. Sorry.” ・店でほしい文房具を集める。 6 振り返りカードの記入、あいさつ	○ ○ ◎	○ ◎	・児童が楽しみながら英語を話せるようにお店屋さんごっことした。 ・相手を意識して活動できるようにコミュニケーションポイントを確認する。 ・グッバイチャレンジを行い、個の学習状況を把握する。